＝当日会場配布資料（樫田）＝

関東社会学会・福祉社会学会共同企画テーマセッション in 関東社会学会第60回大会

学会活動と論文投稿のノウハウを公開・共有しよう

－研究活動支援と学会の自己認識のために

**ご案内**　福祉社会学会**第37回**（先週6月２日の研究委員会で会の回数が確定致しました）研究会を，関東社会学会と福祉社会学会の共同企画として、下記の通り開催します。今回は、第60回関東社会学会大会内のテーマセッションの形をとります。福祉社会学会側からは樫田美雄（研究委員会委員＝若手支援担当＝）が、関東社会学会側からは、中筋直哉（研究委員長＝若手支援担当＝）が出て、共同コーディネーターとなって企画いたしました。

* + 開催日時：2012年6月9日（土）14:00～16:30
  + 場　　所：帝京大学八王子キャンパス
  + ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：中筋直哉（法政大学）・樫田美雄（徳島大学）

～セッション趣旨～

　本テーマセッションは、若手支援の学会活動の一環として企画されている。また、関東社会学会と福祉社会学会の合同企画としての企画となっている。もちろん、関東社会学会は、若手支援の学会活動がもっともさかんな学会のひとつである。それでも、この企画を立てる意義はあると信じている。 たしかに、修論セミナーの豪華さと有意味性は、全国にとどろいている。けれども、若手支援活動を①出会い提供系、②訓練用発表アリーナ提供系、③ノウハウ情報提供系、の３類型に分けたとき、両学会が、このすべての分野でバランスよく飛び抜けた実績を上げてきた、という訳ではないだろう。すなわち、本テーマセッションでは、上記３類型の若手支援活動のうち、第３類型に特化した形で若手支援の学会活動を活性化しようとするものである。

　ノウハウ情報提供系は、これまでは学会と言うより、各大学の研究室（あるいは、大学院研究科）で提供されてきたものである、ということができるかも知れない。けれども、学際的な研究が増え、院生が増える中で、かならずしも、そのような旧来のシステムが十分な機能を発揮できなくなってきている、というような状況があるようにも見受けられる。したがって、これからは、学会がこの第３類型を支援する必要性もましてきているといえるだろう。 　本テーマセッションでは、以下の方々の積極的な応募をお願いしたい。まず、学会発表やテーマセッションや論文投稿を申し込んだ経験がある方々からその実際の振り返りに基づくノウハウを聞かせてもらいたい。とりわけ、海外学会で発表した方、学会等が提供する研究活動資金に応募なさった方々には、その比較的珍しい経験に基づく知恵を提供して頂きたい。総括討論においては、諸報告を総合して、学会が今後どのような若手支援活動をするべきなのか/していくことができるのか論じて行きたいと思っている。

　年齢に関係なく、博士課程修了（退学）１０年以内程度の方々の応募をお待ちしています。

**＝登壇順（20-22分のプレゼン＋3-5分の質疑）×５＋20分＝**

１）富永 京子（東京大学大学院）

「大学院生と資金助成・国際（国内）学会報告・論文執筆にともなう困難」

２）齋藤 圭介（東京大学大学院）

「学会誌における若手研究者の実態―『年報社会学論集』と『社会学評論』の比較から」

３）坂田 勝彦（東日本国際大学福祉環境学部）

「質的研究における「学際性」と若手研究者のキャリアパス――ハンセン病問題研究のフィールドから」

４）林原 玲洋（首都大学東京）

「社会学者が「学際的」な学会に参加するために何が必要か」

５）小宮 友根（日本学術振興会）

「社会学の学際性と学会活動」　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2012/6/8作成